

# Oh!Smile

2019年3・4月号



大

阪

万

博

EXPO

## 「万博」とは

万博とは、時代の最先端をいく世界各国の科学技術の粋を一堂に展示するほか、各国それぞれのお国ぶりを紹介する展示や催し物により国際交流を深めようとする世界最大の博覧会です。万国博覧会を通称「万博」と呼んでいます。正式名称は「国際博覧会」です。エキスポ（EXPO）とも呼ばれています。国際博覧会は国際博覧会条約（BIE条約）に基づき、大きく二つに分けられています。一つは登録博覧会で開催地についてはBIEの投票で決定され、5年間隔で開催することが定められており、開催期間も最大で6ヶ月です。もうひとつは認定博覧会で各国の政府がいろいろな目的で開催され、開催期間は最大で3ヶ月までになっています。アジアでの登録博覧会は1970年の日本万国博覧会（大阪万博）、2005年の日本国際博覧会（愛知万博、愛・地球博）、2010年の上海国際博覧会（上海万博）だけであり、再度大阪が開催権を獲得した2025年の博覧会も規模が大きい登録博覧会です。国際的なイベントと聞くと、オリンピックやサッカーのワールドカップがあり、オリンピックは50億人、ワールドカップは延べ300億人がテレビ観戦していると言われています。しかし、リアルに現場で体験した人の数はオリンピックで約8000、900万人、ワールドカップは約300万人です。一方、万博はコンスタントに1千万人単位で集客し、世界を見渡してもこんなイベントはほかにありません。それだけの意義があり、大きな役割を果たしてきたからです。



## 万博の歴史

世界最初の万博は1851年にロンドンで開かれました。当初の万博は倉庫タイプの大規模展示場で、ひたすらモノが並ぶ展示会でした。ロンドン万博は大成をおさめ、欧米の列強国は万博に飛びつきます。以降20年間に50もの万博が開催されました。万博がイギリスで始まった理由は「工業力」と「自由貿易」において他国を引き離していたからです。その後、万博はパリが中心になります。1867年のパリ万博では独立したパビリオンが登場しました。日本もこの万博に出展しています。庭園ゾーンに数寄屋造りの茶屋を建て、そこに3人の芸者を展示したのです。はじめて目にする和服の日本女性にパリ市民は釘づけになり、トップクラスの人気を博したと伝えられています。フランス革命100年を記念した1889年のパリ万博ではエッフェル塔がつけられました。今やパリになくはない存在ですが、もともとは20年限定の仮設建造物でした。万博に集まった大衆を待ち受けていたのは新技術であり、その体験でした。電気力を見せつけたのも万博です。サーチライトを使ってエッフェル塔をフランス国旗の三色で染め上げました。万博は未来からやってきたモノが目の前に立ち現れる場所になりました。車・電車・自転車・電気照明・映画・エレベーター・ミシンなどなど、ほぼ例外なく万博でお披露目されたのです。20世紀に入ると万博の中心はアメリカに移ります。この時、アメリカの工業技術力はヨーロッパを追い越していたからです。第一次世界大戦後の10年が経過した1928年にフランスが音頭をとって国際会議が開かれます。「国際博覧会に関するパリ条約」が締結され、「博覧会国際事務局（BIE）」の創設が決まり、今も本部はパリに置かれています。

## 万博を日本へ!

日本での万博開催は明治以来の悲願でした。日本は3度準備して、いずれも幻に終わっています。最初は1890年の亜細亜博覧会でしたが、緊縮財政下によって実現しませんでした。2度目は「日本大博覧会」で、これも財政難から実現せず、3度目は準備が着々と進んで2年後に控えていましたが、日中戦争が激しくなり、中止を決定しました。無念の歴史を背負った4度目の万博、それが大阪万博となりました。実際に大阪万博では1940年に発行された前売り券が有効とされ、30年の時を超えて千枚単位で使われたのです。東京オリンピックを翌年に控えた1963年、敗戦から20年の節目を目前にして、オリンピックと万博を立て続けに成功させれば、日本の戦後復興を世界に示せると考えられました。大阪万博はなんとでも成功させなければならぬ国家プロジェクトだったわけです。焼け跡から出発した日本は1968年に、ついにGNPが西ドイツを抜いて、世界第2位になります。1965年のBIE総会で開催が承認され、アジア初、しかも力テゴリー最上位、最大規模の「第一種一般博覧会」に決まりました。1970年3月15日、ついにアジア初の万博が日本で幕を開けました。「日本万国博覧会」、通称「大阪万博」です。



# 「EXPO, 70」物語

1970年3月15日から9月13日までの183日間、「人類の進歩と調和」をテーマに掲げ、77カ国が参加して開催されました。総入場者数は約6,421万人で、2010年の上海万博(約7,308万人)に抜かれるまで万博史上最多でした。公式なシンボルマークは日本の国花である桜をかたどったものです。

## ○ 企業パビリオン

企業パビリオンが投入した予算は数十億円にのぼると言われました。現在の価格にして200億3000億円もの資金が投下したことになります。最新設備を備えた大型工場が建設できる資金を1パビリオンにつき込んだのです。「お国のため」という意識があったこと、万博自体にそれだけの魅力があったということになります。本格的な飛行機の操縦体験で人気となった「日立グループ館」、全天全周ドーム映像が呼びものになった三和グループの「みどり館」、さまざまなロボットが一堂に介した「フジパン・ロボット館」、タイムカプセルの「松下館」、子供たちに人気が高かった「三菱未来館」など、目じる押しでした。動く歩道、テレビ電話、レーザー光線、電子音楽、人間洗濯機に至るまで、はじめての体験が用意されました。

## ○ 外国パビリオン

アジア初の開催とあって、博覧会離れしていた欧米各国も積極的に参加しました。日本人が初めて目にするエアドームを持ち込んだのがアメリカです。当時の日本にはその施工経験がなかったため、施工監理にあたったのは「アメリカ陸軍極東地区工作隊」でした。「アポロ計画」を前面に立て、「月の石」は万博最大の呼びものとな

りました。対するソ連は万博最大の面積、かつ万博一の高さ109mの巨大パビリオンで対抗します。同じく宇宙開発をアピールし、高さ80mの大空間に宇宙船を浮かべました。カナダ館の建物は4万枚の鏡で覆われ、中庭のプールには100年前に日本から送られた金魚の子孫を放ちました。フランス館ではレストランに注力し、格調高いレストランを政府直営で出店します。「音楽の花園」を掲げたドイツ館、巨大彫刻という異色の展示館をつくったスイス館など、独自の戦略で臨みました。

## ○ リアルな外国体験

大阪万博は外国を一気に身近なものにしました。当時はまだまだ外国は遠い存在でした。そんな時代にあって、8500人の外国人スタッフが働き、海外から170万人もの観光客が訪れました。はじめて外国人と言葉を交わし、間近で外国人を見た、という強烈なインパクトがありました。ちょうど庶民が気軽に外国に行ける時代が到来しようとしていたのです。

## ○ 太陽の塔

岡本太郎氏がつくった太陽の塔は規格外でした。大屋根十か祭り広場が万博最強のアイコンであり、大屋根に対峙するものとして太陽の塔を構想し、それは大屋根を生かすことになりました。高さ300mの大屋根をつきやぶってのびる70mの太陽の塔は左右に腕を広げ、万博を訪れた人々を迎えました。太陽の塔が大阪万博を支え、現在も記念公園のシンボルになっています。



## ○ テーマソング

「世界の国からこんにちは」はテーマソングとして、三波春夫、坂本九、吉永小百合など複数の歌手で各社からレコードが発売され、300万枚を超えました。中でも三波春夫盤は140万枚を売り上げるミリオンセラーになりました。



## 2025年の開催へ!

昨年11月23日のBIE総会の加盟各国の投票で日本(大阪)が選ばれました。大阪市此花区(夢洲)で開催予定となった日本国際博覧会は登録博覧会に区分され、総合的なテーマを扱う大規模博覧会として実施されます。1970年の大阪万博と区別するため、略称は「大阪・関西万博」となりました。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」とし、人工知能(AI)や仮想現実(VR)など21世紀の最先端技術を活用した医療・健康・スポーツや娯楽・新ビジネスなどを一堂に集め、世界の人々に経済・社会の未来像を示すという書案を公表しました。150カ国の参加を見込み、5月3日から11月3日の185日間で国内外から約2,800万人の来場を想定しています。総合リゾートの開業も目指しおり、地下鉄や湾岸エリアの再開発などインフラ整備が加速していきます。20年の東京での五輪、25年の大阪での万博は日本の二大都市を再び国際社会に向けてアピールする機会となります。



## 編集後記

活気に満ち溢れた「1970年にくこんにちは」から半世紀が経ちました。私は小学校の高学年でしたが、あの熱気は今も心に残っています。家族や親戚、また友達同士でもよく行きました。地下鉄に乗って、会場に着いて、ゲートをくぐると万博会場はパツと光がさしたよう別世界でしたね。朝早くからゲートに並んで、人気のパビリオンにまっしぐらに走って向かいました。はじめて見るもの、触れるものがたくさんあって、夕方遅くまであちこちを興奮しながら走り回っていました。パビリオンだけでなく、行き交う外国人に近づいては挨拶したり、握手したり、サインをもらったりして、俳優のような存在でした。外国人も驚いたことでしょうか!心が躍る数々の場面は今もなお鮮明に思い出します。再び大阪で万博決定となり、回想する機会を得たようです。パビリオンや展示物だけでなく、沈鬱なムードが漂う今の世界の中、人と人とのつながり、結ばれる、そんな万博になればいいですね。(YASU)

**浪速フード株式会社**  
〒570-0003  
守口市大日町3-32-11  
TEL 06-4252-7770  
FAX 06-6904-2610  
E-MAIL smile@naniwaf.co.jp  
HP http://www.naniwaf.co.jp  
※「Oh!smile」へのご要望・お問合せは上記にご連絡ください。